平成３０年５月１４日

浜田市議会議長　川神裕司様

議員名　澁　谷　幹　雄

調　査　研　究　活　動　報　告　書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

１．期　　間　　平成３０年５月１０日（木）～５月１１日(金)

２．視察先と内容

- 特定非営利活動法人エコロジーオンライン理事長上岡裕
  「音楽による認知症ケア」について
  ―栃木県佐野市役所において
- 埼玉県横瀬町富田能成町長
  官民連携プラットホーム「よこらぼ」について

３．調査経費　　50，000　円（交通費・宿泊費）

４．調査研究活動の概要　　別紙

浜田市議会
受
30.5.14
付

埼玉県横瀬町官民連携プラットホーム「よこらぼ」について
富田能成町長自らの説明を受ける
→　このまちの未来を変える一町長の公約　→　帰って来たくなる町を創る，景観・雰囲気
→　２５歳の成人式（二度目）・小学生に町長室の椅子に座らせる
① 未来型地方創生―新しい町の絵を描く
② 町の知名度向上に寄与、案件が案件を呼ぶ好循環
③ クリエイティブな人材が集う小さな町というブランド確立
④ 教育分野で顕著な進展
⑤ 農業体験シェア、遊休スペースシェアによる「稼ぐ」顕著な進展
⑥ 都市部からヒト・モノ・カネ・情報が低コストで継続流入
⑦ 市長室や議場も、空いているときは貸し出す―シェアする
⑧ コスプレ撮影の聖地―学校・棚田、祭りの担手募集―外人参加
⑨ スマホで小児医療相談
⑩ 少子化と高齢化は、別物
⑪ 横瀬町の問題は、少子化の方→民との協働
⑫ 人口減少に対する抑制と備えが必要
⑬ 未来を変える必要がある―外部からの力―人・金・情報を使う
⑭ これからの世の中は、これまで以上に代わる
⑮ 職業も、産業構造も変わる―圧倒的に変わる
⑯ 世の中に対して、窓を開く、特にテクノロジー
⑰ 子どもたちは、これまでの世界とは違う世界を生きる
⑱ ビジネスチャンスの拡大、自治体とのコネクションがない
⑲ 官民連携のでは、スピード感必要―民に合わせる、自治体は信用力あり
⑳ 民間からの提案、プレゼン→よこらぼ審査会

富田町長自身が政策説明

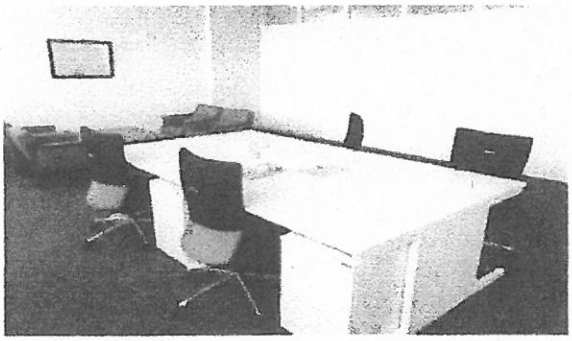
視察所見

「研修」に参加して、その内容に驚いたり、ショックを受けることはママあることだが「視察」の説明では感心することまでで、カルチャーショックを受けることは稀である。ほとんどの場合、担当職員が機械的に説明するだけだからだ。第一忙しい「長」自らが説明してくれたのは、これまで邑南町の石橋町長だけで、あとは最初の挨拶が精一杯。けれども、この５３歳の富田横瀬町長はその例外の一人だった。彼は、冒頭「これからの３０年は、世の中が圧倒的に変化する」と言った。これまでの３０年など比べ物にならないくらいの速さと規模で。すなわち、彼は遠くを見据えた上で、「よこらぼ」という戦略を練っているのだ。私にも、人口知能「ＡＩ」の進歩で大きく社会環境が変わるだろうことぐらい予想はつく。将棋界の高校生棋士藤井６段の強さは、天才にプラスして将棋ソフトのＡＩの強さが加味されているからだと聞くが、一方自動運転技術が騒がれても、そんなことが可能なのか半信半疑で、理屈では可能でも、人間の邪悪な心の前ではハッカーによって自動運転のソフトが乗っ取られてパニックになるのでは？　という、どこか、これからのテクノロジーの進歩に懐疑的なところがあったのだ。しかし、今回の富田町長の説明を聞いていると、行政の長は、そういった社会の進歩を見据えた上での、ビジョンと戦略が必要であることの重要性を気付かされた。一般会計予算の規模は３４億円、浜田市の１０分の１にも満たないのに、その知恵の輝きに圧倒された視察になった。建物を建てるというハード事業より知恵というソフト事業によって、まちを輝かせる。浜田市長と一緒に聞かなかったことが残念でならない。

特定非営利活動法人エコロジーオンライン理事長上岡裕
佐野市役所

① 音楽による認知症ケアの開発→５人１人は認知症の時代
② パーソナライズされた音楽の有効性—高齢者対応したコンテンツ
　→ipadにそれぞれの個人にふさわしい懐かしい楽曲をダウンロードして提供
　→興奮状態や夜間の幻覚や錯乱の減少、社交性の向上、薬物なしのケア
　→笑顔が増える—スタッフのストレス軽減—書類作成業務多い
　→ヘッドフォン対応—三か月のトライアル事業
　→暮らしの支え、毎日～週４回程度の頻度—反応良し
　→患者が元気になることで、介護の負担が増えるという問題点
　→エビデンス（科学的根拠）の取得の難しさ
　→自分が知っている父や母と、認知症になった父、母は違うことの戸惑い
　→認知症になると、社会との関係が遮断され、社会性の喪失→さらに悪化へ
③ 介護難民—音楽による高齢者の居場所づくり→社会性の回復
④ 認知症予防をテーマとするツーリズムの開発
⑤ 認知症サポート養成講座
⑥ ユニバーサル農業—障がい者と高齢者など、誰もが「農」に親しみ、多彩な効用を享受することで農家・農村の理解促進と社会活動の向上を図ろうとするもの
　→成長の楽しみ、大地・土からの恩恵

認知症は、初期対応すれば、改善すると聞くが、音楽は改善の有効なツールの一つ
医学の進歩に伴い、今後認知症が治癒する薬が開発されるのか？



佐野市議会の議員控室は、浜田市議会と違って、会派の議員の数だけの机がそれぞれあって、そのうえソファが置かれていた。ある意味当然の環境。浜田市議会との違いは歴然。水回りは、議員共同が一か所